

香ノ半バニ川音ニツレテ千鳥ノ啼テ飛カフ最興アリ千鳥ハ香ヲ好ムモノ也水邊ニテ名香ヲ
 タケバ千鳥多ク集ルノ由仰ナリ十一月二十四日十炷香ノ法ト云コトハ近代ノコト也逍遙
 院時代コノカタナルベシ薫物ヲキククラベタルコトハ日本ニテハイカウ舊キコト也十二
 年正月二日昔シ無上方院ノ御時ヨリシテ今日御香初メナリ例ニマカセテ遊バスベキ由ニテ
 御香二座アリ仰ニ再則是可也トハ何ニモ通用スベキコトナリ別シテ香ナドモツト嗅タル時
 コレハ假令バーノ香ナリ三ノ香ナリト思テ再ビ思惟スレバ極テ違フモノナリ擬疑スレバ種
 種ノ香ニウツルモノナリト仰セラル

流派

〔香道濫觴傳書〕御家流○と稱する開祖は西三條内大臣實隆公姓藤原號逍遙院法名堯空後柏原院
 御宇文龜年間之御香所天文六年十月三日薨去にて御廟所嵯峨二尊院に有○中百四代後土御
 門文明年間西三條右大臣公敦號龍朔院公ハ實隆公御父也百七代正親町院天文文祿年間西三
 條右大臣號稱名院公ハ實隆公御子也御三代相續して御香所也○中實隆公よりして香所御傳
 授油小路隆定初て地下に傳ふ白川殿家臣猿島帶刀胤直號天桂齋往昔は白井氏と名乗此人に
 傳り始て地下に香の御家之傳來流下る故に後世御家流と稱る也○中香聞習ふ手段に組香を
 製し初學の人の倦怠せぬため勝負に事寄せ或は盤立物といふ物を製し種々人形等飾慰る猶
 茶方の茶歌舞妓の類也皆香道に登らしめんの筈也

〔本朝世事談綺三藝〕香道法に相阿彌流志野流○の二派あり

〔香道濫觴傳書〕志野流は文龜年間志野三郎左衛門宗信一子同彌三郎宗温名祐憲號參雨齋孫同
 彌次郎名は省巴號不寒齋是を志野家三世といふ宗信は御家流を慕ひて焚香の高名也後一流
 を建立して志野流といふ省巴の門に建部隆勝といふ人あり近江の武士信長時代の人なり號